

資料提供
令和8年6月24日
課名：農業技術課
担当：月岡（つきおか）
内線：3556
直通電話：082-513-3559

スマート農業技術「水田のドローン追肥」勉強会、ドローンの展示飛行を行います

広島県北部農業技術指導所

令和8年7月1日、三次市立君田生涯学習センターで、スマート農業技術「水田のドローン追肥」勉強会を開催します（主催：広島県北部農業技術指導所）。三次・庄原地域の大規模農業法人8社が集まります。令和4年からこの技術の実証に取り組んでいる合同会社安田農産が技術解説するとともに、水田でのドローンの展示飛行を行います。



離陸する DJI T25(令和7年)



DJI MG-1S ドローンによる追肥作業（令和4年7月22日）

日時：令和8年7月1日 10:00～技術解説・質疑
11:00～水田に移動してドローン展示飛行
（雨天の際は、室内で実機展示）

場所：三次市立君田生涯学習センター（ホール）及び隣接ほ場
[三次市君田町東入君 644 番地 8]

参加：申し込みは必要ありません

(同)安田農産（安田^{やすだつよし} 剛 代表社員、三次市君田町）のプロフィール

(同)安田農産は、令和7年に水田 32 ヘクタールでスマート農業技術「ドローン追肥」の技術実装に成功し、ドローンで肥料を追加散布することで収穫量を増加させ、肥料コストを削減しています。環境問題となっているプラスチックコーティング肥料*1 使用ゼロにもつながりました。

連絡先：広島県北部農業技術指導所 [三次市十日市東 4 丁目 6-1 県三次庁舎]
電話 0824-63-5199

(報道機関向け資料)

近年の水田農業を取り巻く背景

気候変動により、米の収穫量の低下が恒常化しており、従来のプラスチックコーティング肥料を田植時1回使用する施肥体系から脱却した水稻の生育ステージに応じた施肥管理が課題となっています。また、農業界全体としても、プラスチックコーティング肥料*1からの転換が求められています。

*1「プラスチックコーティング肥料」

水田ではプラスチックを薄くコーティングした肥料が使われており、土の中でプラスチック被覆が徐々に壊れることで、ゆっくりと肥料成分を効かせることができます。肥料を散布する回数を削らすことで作業の省力化、米の低コスト化に役立てられてきました。しかし土壌中のプラスチック残留が懸念されることから、令和12年までにプラスチックコーティング肥料から転換する業界目標が設定されています。

(同)安田農産(安田剛代表社員、三次市君田町)は、令和4年から試験栽培を行いながら、スマート農業技術「ドローン追肥」の面積を拡大してきました。令和7年に全面積32ヘクタールでの技術実装に成功しました。

(同)安田農産の「ドローン追肥」成果

(同)安田農産では、コシヒカリで収穫量10アール当たり538キロに増加させ(従来から10%以上増加)、化学肥料コストを40%削減することに成功しました(10アール当たり6,367円 → 3,770円、令和8年3月の価格)。そして、肥料散布時間を従来の方法より63%減少させました(60アール当たり49分57秒 → 13分27秒)。

なお、速効性の化学肥料を用いることで、プラスチックコーティング肥料*1使用ゼロにもつながりました。

三次・庄原地域を代表する大規模農業法人8社の勉強会「水稻安定多収研修会*2」

「ドローン追肥」技術は、大規模水稻経営体向けの栽培技術としての拡がり期待されます(20ヘクタール以上3社、15ヘクタール1社、10ヘクタール1社、試験栽培1社 令和8年度北部農業技術指導所管内)。

(同)安田農産の安田剛氏は水稻安定多収研修会*2で「ドローン追肥」技術のアドバイザーを務めています。

*2「水稻安定多収研修会」

三次・庄原地域の大規模農業法人8社による勉強会。(株)神杉農産(戸田博敬代表取締役、三次市廻神町)が実践する「備北地域における米の多収モデル」をお手本に会員間で栽培技術を切磋琢磨しています。